うつ病・認知症シンポジウム
両疾患の解明・治療に向けて

うつ病、認知症は、社会的負担の大きい疾患の代表であり、その罹患数の多さと性質から、我々の生活に重大な影響を及ぼしている。健康長寿国であるはずの我が国は、高齢社会の進展に伴う認知症患者の増加と介護の問題を抱え、また、働き盛りの人々とそれを取り巻く社会に多大な影響を及ぼすうつ病患者の増加は大きな問題である。医療と神経科学の先進国として、両疾患の原因解明、根本的治療に向けた研究に国を挙げて取組む事が極めて重要となってきている。

本シンポジウムでは、これまでの研究で解ったこと、解っていないことを解説するとともに、社会の構造の変化のなかで更なる増加が想定される両疾患について社員やその家族という立場で直面するであろう企業がとるべき戦略とは何か、討論を通じ、両疾患の解明・治療に向けた研究の進め方についてともに考える。

12月8日（木）14時-17時（13時半開場）

イイノホール 東京都千代田区内幸町2-1-1 霞ヶ関駅徒歩1分、内幸町駅直結

入場無料

社会は悩める人で支えられている。

藻谷 浩介
日本政策投資銀行参事役
地域エコノミスト。著書に『デフレの正体　経済は「人口の波」で動く』など。復興構想会議検討部会専門委員など公職多数。

渥美 由喜
内閣府男女共同参画会議専門委員
（東レ経営研究所 研究部長）
コンサルタント。著書に『イクメンで行こう！―育児も仕事も充実させる生き方』など。内閣府企業参画型子育て支援事業研究座長など公職多数。

岩坪　威
東京大学大学院医学系研究科 教授

神庭 重信
九州大学大学院医学研究院 教授

加藤 忠史（パネルディスカッション）
理化学研究所脳科学総合研究センター チームリーダー

司会・ファシリテーター
薮本 雅子
元日本テレビアナウンサー・記者

主催：うつ病・認知症コンソーシアム、理化学研究所
後援：日本うつ病学会、日本認知症学会、
21 世紀医療フォーラム、
文部科学省（予定）、厚生労働省（予定）

事前申込み URL　http://dd.umin.jp/
問い合わせ先　うつ病・認知症コンソーシアム事務局
dd-office@umin.ac.jp